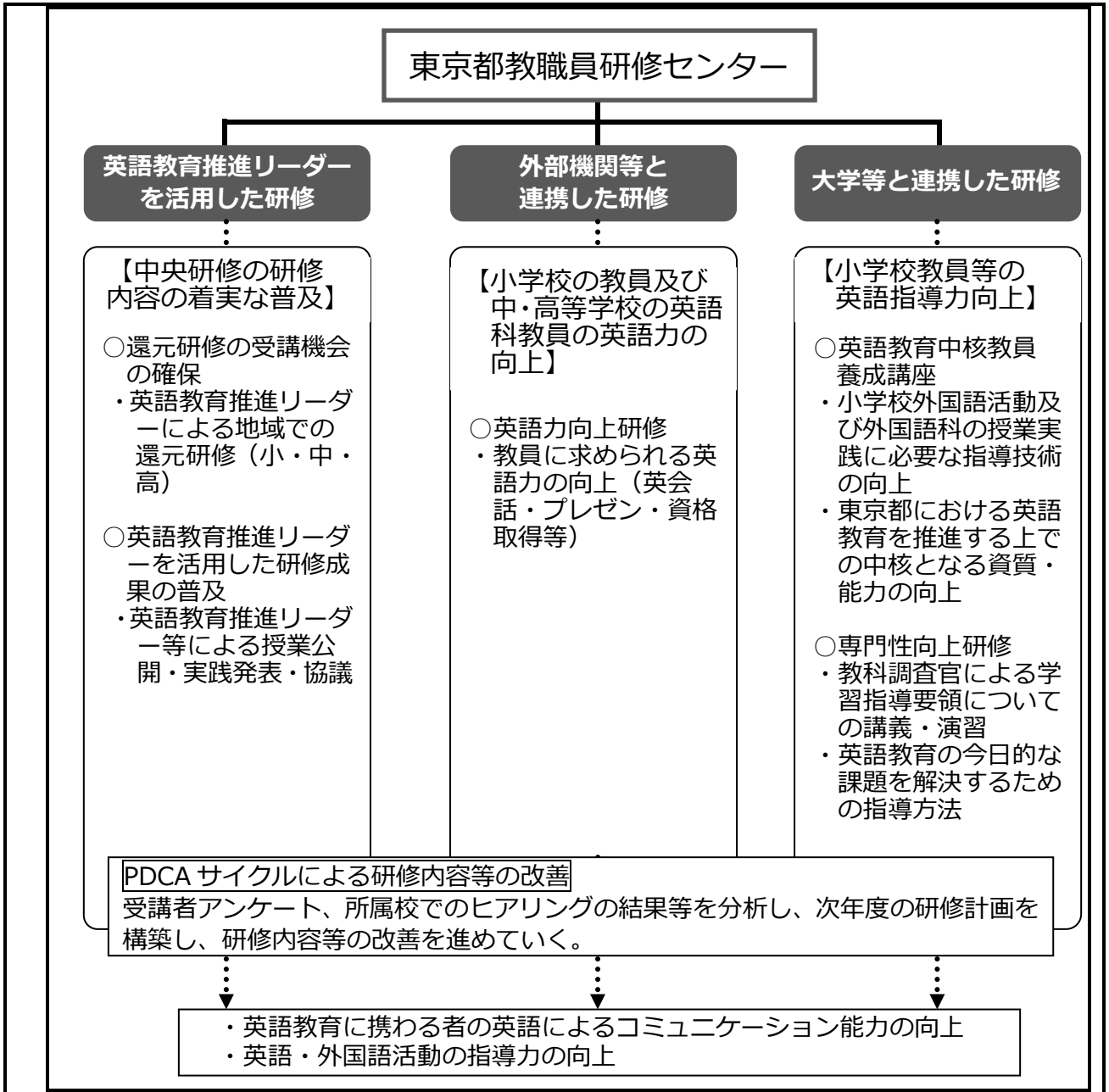


東京都英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

1 数値目標（①～⑧の番号は目標管理書の指標内容に対応）

(1) 高等学校及び中学校

① 求められる英語力を有する教師の割合（％）

東京都は平成26年12月に「東京都長期ビジョン」を策定し、「世界をリードするグローバル都市の実現」を都市戦略に掲げた。そして、その政策指針として、「東京、そして日本を支える人材の育成」を掲げ、平成32年（2020年）までに「英検準1級、TOEFLiBT80点以上」の英語能力をもつ英語科教員の割合を高等学校で85%以上、中学校で60%以上となることを目指している。

令和元年度は、高等学校の目標値を80%、中学校の目標値を60%に掲げ、研修体制の充実に向け取り組んだ。令和2年度は令和元年度の結果を踏まえ、高等学校の目標値を85%、中学校の目標値を60%として研修体制の充実等に取り組む。

② 求められる英語力を有する生徒の割合（％）

前掲の「東京都長期ビジョン」において、東京都は、おおむね10年後までに「高校卒業段階で、日常生活に必要な英語力（英検準2級程度）を習得」させることの実現を目指しており、生徒の英語力向上を図る研修の充実を一層推進している。国が示した目標値「高校卒業段階に英検準2級～2級程度以上50%」「中学卒業段階に英検3級程度以上50%」を踏まえ、令和元年度は、高等学校の目標値を55%、中学校の目標値を58%とし、取組をすすめた。令和2年度は令和元年度の結果を踏まえ、高等学校・中学校の目標値をともに60%として授業改善に取り組む。

③ 学習到達目標の整備状況（設定・公表・達成状況の把握）

東京都教育委員会は、平成24年2月に策定した「都立高校改革推進計画第一次実施計画」に、「都立高校学力スタンダード」策定事業を掲げ、平成25年3月に具体的な学習目標を示した「都立高校学力スタンダード（平成25年度版）」を作成した。また、精査・改訂された平成26年度版では、「現代文B」、「世界史A」、「数学Ⅱ」等、8科目の中に「コミュニケーション英語Ⅱ」を加え、内容の充実を図っている。英語科における学習到達目標、いわゆるCAN-DO形式での整備状況となると現状としては高い数値とは言えないが、平成27年度は、学力スタンダードを実施する全ての都立高校において高校入試等の分析結果や前年度の学力スタンダード学力調査問題分析結果に基づき、自校の「学力スタンダード」を作成させ、HPに公表させている。学習到達目標の設定、公表、達成状況の把握目標値としては、令和元年度は、高等学校で100%、中学校で100%とし、取組を進めた。令和2年度も高等学校及び中学校ともに100%を設定している。

④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合（%）

平成30年度の結果を踏まえ、令和元年度は高等学校の目標値を65%、中学校の目標値を85%に設定し、取り組んだ。令和2年度は、令和元年度の結果を踏まえ、高等学校の目標値を65%、中学校の目標値を85%に掲げ、授業改善・指導力向上研修の充実を図る。ペアワークやグループワーク等を含めて、生徒が英語で言語活動をしている時間の、1単位時間の授業に占める割合の増加を図る。

⑤ パフォーマンステストの実施状況

令和2年度の「スピーキングテスト」及び「ライティングテスト」については、高等学校及び中学校共に、テストの総合計数を全学科数で除した値の目標値を「5」に掲げ、取り組む。

今後、指導に必要な英語力を身に付けさせる研修を一層充実させるとともに、外部機関との連携を図り、「話すこと」及び「聞くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するパフォーマンステストの実施回数を増やす。

⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況（%）

現状を踏まえ、令和2年度は高等学校の目標値を100%、中学校の目標値を80%に設定し、取り組む。英語担当教員が授業において発話をおおむね、あるいは半分以上を英語で行うことができるよう、今後は、教員を対象とした外部検定試験の受験を支援していくなど、教員の英語力向上研修の充実を図る。さらに、授業改善・指導力向上研修を充実させ、どの科目においても英語の使用割合を増やす。

⑧ 英語担当教員に対する研修実施回数（東京都教職員研修センター）

平成31年度（2019年度）は、高等学校教員を対象に延べ110回の研修を実施し、延べ5,059名が受講した。また、中学校教員を対象に延べ288回の研修を実施し、延べ7,116名が受講した。

令和2年度は、教職員研修センターで高等学校教員を対象に延べ45回の研修実施及び延べ450名の受講を、中学校教員を対象に延べ47回の研修実施及び延べ810名の受講を目標として、研修機会と内容の充実に取り組む。

(2) 小学校

②及び③ 小学校教員に対する研修実施回数（東京都教職員研修センター）

平成31年度（2019年度）は、小学校教員を対象に延べ153回の研修を実施し、延べ9,738名が受講した。令和2年度は、教職員研修センターで小学校教員を対象に延べ35回の研修実施及び延べ2,200名の受講を目標として、研修機会の拡大と内容の充実に取り組む。

○小学校の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

2020年度（令和2年度）に実施する教員採用候補者選考の申込区分において、小学校全科（英

語コース)を引き続き設置するとともに、特別選考を活用し、2021年度(令和3年度)は、目標値を8%として取り組む。

また、2020年度(令和2年度)は、2025年度(令和7年度)において、50%以上の者が一定の英語力を有するよう資格取得の手法を検討する。

(3) 研修の体系と内容の具体

1 研修の体系と内容の具体(東京都教職員研修センター)

(1) 中央研修の研修内容の着実な普及

従来の英語教育推進リーダーによる還元研修の受講機会を確保して実施することに加え、英語教育推進リーダーによる公開授業及び実践発表、協議を全ての校種において実施し、中央研修の研修内容の普及率を高める。

(2) 教員の英語力・指導力向上

外部機関や大学等と連携した研修を実施し、教員に求められる英語力の向上(資格取得、授業を行うのに必要な力)と英語教育の今日的課題を解決するための指導力向上を図る。

2 令和2年度計画(東京都教職員研修センター)

	令和2年度
開設講座数	99
受講予定者数	2,915
連携機関等	下記記載のとおり

研修名	受講対象	目的	研修回数	受講予定数	連携機関等
外国語活動Ⅰ (外活基礎)	小・特	外国語に慣れ親しむための具体的な教材や授業展開、指導方法について学ぶ。	2	70	拓殖大学等
外国語活動Ⅱ (系統的指導)	小・中・特	中学年から高学年までの系統的な指導の在り方について学ぶ。	2	250	上智大学等
英語Ⅰ (小基礎)	小・特	小学校外国科の具体的な教材や授業展開、指導方法について学ぶ。	2	70	文部科学省等
英語Ⅰ (中基礎)	中・特	中学校学習指導要領の目標及び内容等を理解し、中学校における基本的な授業展開や指導法、学習評価について学ぶ。	2	35	文部科学省等
英語Ⅰ (ALT)	中・高・特	中・高等学校における効果的なALT等の活用や授業の工夫などについて学び、英語教育を推進する力を高める。	2	35	桜美林大学等
英語Ⅱ (領域別目標)	小・中・特	小学校から中学校までの系統的な指導の在り方について学ぶ。	2	100	清泉女子大学等
英語Ⅱ (使える英語)	中・特	五つの領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導法や授業づくりについて学び、中学校英語の指導力の向上を図る。	2	70	昭和女子大学等
英語Ⅱ (指導の要)	中・特	中学校における英語教育の今日的課題とこれからの指導の在り方について理解し、小学校や	2	35	東京学芸大学等

		高等学校との円滑な接続を図る指導について学び、中学校英語の指導力の向上を図る。			
英語Ⅲ (中インタラクション)	中・特	「話すこと(やり取り)」の領域において設定する目標の実現を目指した指導を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導法を学び、英語教育を推進する力を高める。	2	35	文教大学等
英語Ⅲ (高ディスカッション)	高・特	「話すこと(やり取り)」の領域において設定する目標の実現を目指した指導を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導法を学び、英語教育を推進する力を高める。	2	35	文部科学省等
英語教育推進リーダー中央研修還元研修 (平成27年度から平成31年度事業)	高・特	最新の指導理論や方法について研修することにより、東京都における英語教育を推進する力を高める。	4	50	英語教育推進リーダー中央研修受講者
英語力向上 (ONE DAY)	小・特	コミュニケーション体験を通して英語に対する苦手意識を克服し、指導に役立つ英語表現を習得します。	2	800	外部委託機関
英語力向上 (ガイドA)	高	東京の名所等を巡って、英語でガイドをするポイントを学び、東京を英語で案内できる高校生ボランティア「東京イングリッシュガイド」を育成する力を高める。	2	50	外部委託機関
英語力向上 (ガイドB)	高	東京の名所等を巡って、英語でガイドをするポイントを学び、東京を英語で案内できる高校生ボランティア「東京イングリッシュガイド」を育成する力を高める。	2	50	外部委託機関
英語力向上 (集中A)	小・特	外国人講師等との英語による会話等を通して、「話す力」を高める。	4	180	外部委託機関
英語力向上 (集中B)	中・特	外国人講師等との英語による会話等を通して、「話す力」を高める。	6	60	外部委託機関
英語力向上 (集中C)	高・特	外国人講師等との英語による会話等を通して、「話す力」を高める。	6	40	外部委託機関
英語力向上 (プレゼンA)	小・特	外国人講師等との英語による会話等を通して、発信力を高める。	5	120	外部委託機関

英語力向上 (プレゼンB)	中・特	外国人講師等との英語による会話等を通して、発信力を高める。	5	30	外部委託機関
英語力向上 (プレゼンC)	高・特	外国人講師等との英語による会話等を通して、発信力を高める。	5	30	外部委託機関
英語力向上 (検定A)	小・特	英語検定試験準2級を取得することを目標として、実践的な英語力を高める。	5	30	外部委託機関
英語力向上 (検定B)	小・特	英語検定試験2級を取得することを目標として、実践的な英語力を高める。	5	30	外部委託機関
英語力向上 (検定C)	中・高・特	英語検定試験準1級を取得することを目標として、実践的な英語力を高める。	6	50	外部委託機関
英語力向上 (検定D)	中・高・特	英語検定試験1級を取得することを目標として、実践的な英語力を高める。	6	50	外部委託機関
英語力向上 (検定E)	中・高・特	TOEIC 730 点以上を取得することを目標として、「聞く力」「読む力」を高める。	5	30	外部委託機関
英語力向上 (検定F)	中・高・特	TOEIC 860 点以上を取得することを目標として、「聞く力」「読む力」を高める。	5	30	外部委託機関
英語教育中核 教員養成講座 【Basic】	小・特	教員が、外国語活動及び外国語科の授業実践に必要な指導技術を身に付けられるよう、大学と連携した研修をすることにより、東京都における英語教育を推進する上での中核となる資質・能力の向上を図る。	4	50	成蹊大学等
英語教育中核 教員養成講座 【Advanced】	小・特	教員が、外国語活動及び外国語科の授業実践に必要な指導技術を身に付けられるよう、大学と連携した研修をすることにより、東京都における英語教育を推進する上での中核となる資質・能力の一層の向上を図る。	2	500	東洋大学等
研修評価方法		<p>以下の3段階により評価する。</p> <p>○1段階（反応） 受講者アンケート、受講記録により、受講者の研修満足度を評価する。</p> <p>○2段階（学習） 受講者アンケート、所属校でのヒアリング等により、受講者の研修のねらいの達成度を評価する。</p> <p>○3段階（行動） 受講者アンケート、所属校でのヒアリング等により、受講者の行動</p>			

変容や学校への普及・還元度を評価する。

上記の評価結果に基づき、次年度の研修計画を構築していく PDCA サイクルにより、研修内容等の改善を進めていく。

3 研修の体系と内容の具体（東京都教育庁指導部指導企画課）

○外国語（英語）科教員等の海外派遣研修

都内公立学校の外国語（英語）科教員及び都内公立学校の小学校全科教員（合計 110 人）を、英語を母語又は公用語とする国に派遣し、大学等の高等教育機関が運営する英語教授法に係る研修を受講させ、最新の教授法を修得させるとともに、派遣先国の文化の理解を深めさせることを通して、派遣教員の指導力を向上させ、都内公立学校の児童・生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上に資する。

派遣期間は、小学校全科教員は約 1 か月、外国語（英語）科教員は約 3 か月である。

4 小学校の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の採用

2020 年度（令和 2 年度）に実施する教員採用候補者選考の申込区分において、小学校全科（英語コース）を引き続き設置するとともに、特別選考を活用し、一定の英語力を有する者を採用する。

